

## 書評



大垣 尚司 著

### 『米経済紙から学ぶ 実践英単語』

(きんざい 680頁)  
5,184円 (税込)

デジタル社会が急速に進展する中、世界中のあらゆる情報が、マーケット、政府、企業、ユーザーなどから、SNS・インターネット・紙媒体を通じて、絶えず発信され続けている。経済活動のグローバルなリンクと共に、様々な事象が絶えまなく発生し、情報は山のように流されている。情報の海の中、英語の情報を、どう入手して使いこなす、更にはグローバルのあらゆる人たちとのコミュニケーションをとっていくことは、益々重要である。社会人が将来に向けて、何に取り組むにせよ、ビジネスで英語を使いこなす基本として、必須の英単語を自家菜籠中の物にすることは不可欠である。

本書は、最新の米経済紙(ウォール・ストリート・ジャーナル; 以下WSJ)から2,522の例文がピックアップされ、必要な英単語を学ぶことが出来る。661ページ、3,000語程度の英単語が隙間なく掲載され、その英単語について院試水準かTOFEL水準か重要語か金融・経済用語かの分類を行い、更には発音やアクセントも表記され、正に至れり尽くせりである。体系的、実践的ということと、丁寧な表記でわかりやすく記載され、著者の5年間にわたる社会人向けの金融英語公開講座の継続の成果でもある。本書成立には、相当なる緻密な作業の積み重ねであり、私自身が、この労作を、皆様に、是非ともご紹介したいと思った由縁である。

本書の特徴を踏まえて活用していくにあたっての視点は、3点ある。第一は、著者として、WSJ

PART 1 WSJで学ぶ仕事で使える英単語・表現

知ってるはずの単語

慣用表現

Onomatopoeia

Legalese/Latins

病名・医学用語

略語

カタカナ英語になっている単語

数量の表現

英作文・会話で使える表現

PART 2 WSJで学ぶ試験に出る上級英単語+金融用語

知らなくても生きていけるが知っておくとよい単語

似たものをまとめて覚えよう

造語要素から効率的に覚える

A~Z

を少しでも(記事1つ、オピニオン1つ; 15分を目安)いいから、毎日、とにかく継続的に読むことを読者に推奨しており、継続的にWSJと毎日格闘する中で、本書の通読を進めている。第二に、金融関係者に勧めたいとの著者の気持ちが、本書の特徴に現れている。著者のバックグラウンドや関心から英単語が選ばれており、金融関連用語、特に、金利関連やファイナンス関連、最近話題のフィナンシャル・ジェロントロジー関連などは、大変充実している。金融の略語の整理がされ、金融用語にわかりやすい解説もついている。例えば、“NPV”の項目では(113P)、「正味現在価値」ということに加えて、数式も掲載した上で詳しい解説をしている。第三に、最新用語まで網羅しているという特徴と、形容詞表現が大変充実している。ビジネスマンが、海外関係者などとのコミュニケーションをとる時に、大いに役に立つ。例えば、“clawback”(275P)は「(一度渡した物をかき爪[claw]で)取り戻す」と記載してWSJの米国金融機関の記事を引用、“fintech”(371P)もWSJ例文が添付されている。また形容詞では、例えば、“insolent”(428P)「横柄な、ごうまんな」は、トランプ大統領のツイッターのメッセージがWSJ例文として引用されている。

税込5,184円は高価だが、内容の豊富さと緻密さからうかがわれる驚嘆すべき書物である。継続性と粘り強さしか、この書籍を活かす方法はないと思われる。

(イノベーション・インテリジェンス研究所 社長 幸田 博人)